

① 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

| 受理番号 | 学 校 | 教 科 | 種 目 | 学 年 |
|-----------|-----------|------|-----|-----|
| 103-162 | 高等学校 | 数学 | 数学C | |
| 発行者の番号・略称 | 教科書の記号・番号 | 教科書名 | | |
| 61 啓林館 | 数C705 | 数学C | | |

1. 編修の基本方針

- (1) 学習指導要領の目標の達成を期し、わかりやすい例や説明から始めて、学習の便宜を考え、例題は精選して取り扱い、計算の仕方、数学の見方や考え方の理解はもちろん、数学の知恵を養い、活用する力も育むことができるように配慮して編修しました。
- (2) 教師が、学習目標や指導内容を正しくとらえ、生徒の実態に応じて創意工夫をこらした指導ができるように配慮しました。
- (3) 生徒が、学習内容に興味・関心をもち、自発的・意欲的な学習活動ができるように配慮しました。



2. 対照表

教育基本法 第2条 教育の目標

教育は、その目的を実現するため、学問の自由を尊重しつつ、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

- 第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。
- 第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。
- 第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。
- 第4号 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。
- 第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

| 図書の構成・内容 | 特に意を用いた点や特色（号番号は教育基本法を表す） | 該当箇所 |
|----------|--|--|
| 教科書全体 | <ul style="list-style-type: none"> ・各章扉に日常や社会に関連する課題を提示し、職業及び生活との関連を重視するとともに、主体的に社会の形成に参画できるようにしました。(第2号)(第3号) ・各章末に「思考力を養う」、巻末に「思考力をみがく」のコーナーを設定し、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことができるようにしました。(第1号) ・目的意識を持って学習に臨むことができるように、新しい考え方について提示の仕方をApproachとして工夫しました。(第2号) | <p>p. 5, 69, 101</p> <p>p. 68, 100, 142, 164~167</p> <p>p. 14, 21, 28等</p> |
| 巻頭 | <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな情操と道徳心を培うという観点から、前見返しに各章に関連する写真等を配し、また巻頭には「本書の構成」を設け、自ら進んで学習する態度を育むことができるようにしました。(第1号) | p. i ~ ii, 4 |

| | | |
|--|--|---|
| <p>第1章 ベクトル</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・内積の定義から正射影ベクトルの話につなげ、幅広い知識と教養を身に付けることができるようにしました。(第1号) ・幅広い知識と教養を身に付けるという観点から、正四面体の重心についての話題を取り上げました。(第1号) ・湖上を航行する2つのボートの話題を取り上げ、職業及び生活との関連を重視し、数学を利用して身のまわりの問題を解決できるようにしました。(第2号) | <p>p. 20</p> <p>p. 57</p> <p>p. 68</p> |
| <p>第2章 複素数平面</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付けるという観点から、複素数の積・商に関連して、図形の相似の話題を扱いました。(第1号) ・ド・モルガンの法則から2倍角の公式、3倍角の公式を導く話題を取り上げ、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことができるようにしました。(第1章) ・複素数の図形への応用問題を扱った後、それをガモフの宝探しの問題に結び付け、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うことができるようにしました。(第2号) | <p>p. 80</p> <p>p. 82</p> <p>p. 69, 93, 100</p> |
| <p>第3章 平面上の曲線</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・職業及び生活との関連を重視し、生命を尊び、自然を大切にするという観点から、軌跡の問題を立てかけた板にとまっているテントウムシの描く軌跡につなげました。(第2号)(第4号) ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点から、アステロイドとカージオイドについて、研究で詳しく取り上げました。(第1号) ・放物線の焦点の性質を取り上げ、真理を求める態度を養い、生活との関連を意識できるようにしました。(第1号)(第2号) | <p>p. 101, 108</p> <p>p. 129</p> <p>p. 142</p> |
| <p>第4章 数学的な 表現の工夫</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・様々な統計的複合グラフを実際の社会や生活の場面と関連付けて扱い、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うとともに、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるようにしました。(第2号)(第3号) ・行列の計算や行列を用いた表現を日常問題に絡めて扱い、幅広い知識と教養を身に付け、主体的に社会の形成に参画することができるようにしました。(第1号)(第3号) | <p>p. 148～153</p> <p>p. 154～161</p> |
| <p>巻末広場</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・「思考力をみがく」のコーナーでは、これまでに学習した様々な単元の内容を関連付けて取り上げました。また、自ら課題を見つけ解決することを促す記述を入れたり、自他の敬愛と協力を重んずるという観点から、作業性のある課題を配しました。(第1号)(第2号)(第3号) ・他国を尊重するという観点から、内容に関連した数学者を、その年代を示した年表とともに紹介しました。(第5号) ・「math tips」のコーナーでは、斜交座標や最速降下曲線の話題を紹介し、幅広い知識と教養を身に付け、創造性を培い、その能力を伸ばすことができるようにしました。(第1号)(第2号) ・主な数学用語の英語表現を示しました。(第5号) | <p>p. 164～167</p> <p>p. 168～169</p> <p>p. 170～172</p> <p>p. 179～180</p> |
| <p>3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特徴</p> | | |
| | | |

① 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

| 受理番号 | 学 校 | 教 科 | 種 目 | 学 年 |
|-----------|-----------|---------|-----|-----|
| 103-162 | 高等学校 | 数学 | 数学C | |
| 発行者の番号・略称 | 教科書の記号・番号 | 教 科 書 名 | | |
| 61 啓林館 | 数C705 | 数学C | | |

1. 編修上特に意を用いた点や特色

[1] 構 成

(1) 新しい考え方の導入を工夫し、学習内容を総合的に理解できるように配慮しました。

これまでに学習した知識を用いて新しい考え方を学習する場面では、例とは違う要素としてApproachを新たに設け、まず課題を提示し、理解がスムーズに進むように展開を工夫しました。その上で、本文をより深く理解することを助けるために、多くの例を取り上げて説明するように努めました。そして、その知識の定着と応用力をつけるための例題や応用例題を積極的に取り上げました。

また、スパイラルに学習展開がなされるように配列を工夫しました。

さらに、別の視点での解法や解釈、派生してわかることなども効果的な場面に掲載しました。

(2) 図版や色刷りを効果的に用いて、説明は簡潔に要領よくまとめました。

文章の説明だけではわかりづらい内容については、図を用いてスムーズな理解ができるようにしました。

また、問題に取り組む際の思考の過程を本文に書き添え、解決に至る道筋がわかりやすくなるようにしました。

さらに、カラーユニバーサルデザイン(CUD)の観点から、誰にでも見分けられる色使いを心がけました。

(3) 枠囲みや下線などを利用し、学習の内容や要点がわかりやすい紙面構成にしました。

小見出しを細かく配置して、内容ごとのまとまりが明確になるよう心がけました。そして、既習を前提としている項目の内容に当たる部分がわかるようにマークをつけ、生徒の理解に応じた扱いや軽重をつけての指導ができるようにしました。

また、枠囲みを利用して学習の要点が一目でわかるようにしました。特に注目してほしい部分には下線を引いて注意を促すようにしました。

(4) 総合的な応用力を養えるように問題の配置を工夫し、活用力もつくようにしました。

例、例題、応用例題の後の「問」で学習内容の理解と定着をはかり、「◎問」でやや応用的な問題に取り組み、「節末問題」、「章末問題A」、「章末問題B」と段階を追って学習を進めることで、総合的な応用力を養えるようにしました。そして、本文中に関連する節末問題や章末問題Aへのリンクをつけて、節末問題や章末問題Aが柔軟に扱えるようにしました。

また、章扉で日常や社会に関連する課題を提示し、本文中で解決できるようにして、数学を活用する場面にふれることができるようにしました。

そして、理数教育の重視の観点から、進んだ内容を研究として取り上げました。

(5) 学習の中でICTを有効に活用できるようにしました。

コンピュータを有効に活用することで学習内容の理解が深まる場面には、「コンピュータの活用」のコーナーを設け、コンピュータ画面を示して解説するとともに、QRコードも有効な場面では掲載し、その様子をみたりできるようにしました。さらに、QRコードは学習効果が図れる場面に適宜入れ、自分で動かしたり動画をみたりなどできるようにし、生徒の主体的な学習をサポートできるようにしました。

[2] 内 容

本書では、「数学A」の「図形の性質」および「数学Ⅱ」を既に学習しているものとして編集し、「ベクトル」「複素数平面」「平面上の曲線」「数学的な表現の工夫」の順に配列しました。

各章および巻末において留意した点は次の通りです。

第1章 ベクトル

ベクトルの内積を定義した後、そこから正射影ベクトルの話題を取り上げ、様々な見方や考え方を育むことができるように工夫しました。

いろいろなベクトル方程式の導入では、つねに求める図形上の点の位置ベクトルが満たす条件からベクトル方程式を導くように統一し、理解がスムーズにできるようにしました。

問題に対して視点を変えた考え方や求め方を効果的な場面で紹介し、多様な考え方ができるように工夫しました。

湖上を航行するボートが接触するかどうかの話題を取り上げ、ベクトルの考え方のよさが現実の場面で実感でき、興味関心がもてるように工夫しました。

第2章 複素数平面

複素数の実数倍や和・差の説明では、ベクトルを用いた図を配することで、相互の理解がより深くできるようにしました。

複素数の極形式における積・商の図形的意味を説明した後、三角形における回転と相似の話題を取り上げ、複素数の積・商の図形的意味がより深く理解できるようにしました。

複素数と角の関係を学習した後、その考え方をを用いて三角形の形状を求める問題を扱い、理解がスムーズにできるように流れを工夫しました。

ガモフの宝探しの題材を章末「思考力を養う」のコーナーで扱い、まずは実際に作業を通して答えを導き出し、それを説明する流れにし、その際、本文の研究で示したことがこの宝探しに対応していることにふれ、複素数平面に興味関心がもてるように工夫しました。

第3章 平面上の曲線

壁に立てかけた板に止まっているテントウムシの描く軌跡や、放物線の焦点の性質の話題を取り上げ、身近な事柄から曲線に対して興味関心がもてるようにしました。

放物線、楕円、双曲線の導入には、その軌跡が視覚的にイメージできるQRコードを掲載しました。

直角双曲線 $\frac{x^2}{2} - \frac{y^2}{2} = 1$ を回転させると $xy=1$ になることを「研究」として扱い、曲線に対しての視野が広がるようにしました。

アステロイドとカージオイドの定義を「研究」で扱い、アステロイドについては、その媒介変数表示の求め方も扱い、曲線の媒介変数表示の求め方を一歩踏み込んで理解できるようにしました。

第4章 数学的な表現の工夫

統計グラフの活用と行列の活用で節を分け、どちらからでも扱えるようにしました。

統計グラフの活用では、これまでに学習した統計グラフの特徴などを整理し、日常や社会での場面を通して複合グラフを紹介し、日常や社会で数学が活用されていることを実感できるようにしました。

行列の活用でも、日常や社会での場面を通して行列の計算の仕方を説明し、経路の数を数え上げることを活用例として取り上げ、行列という表現のよさが実感できるようにしました。

巻末広場

身近な題材や興味深い題材を取り上げ、問題解決から自主的な探求活動につながるようにしました。

「思考力をみがく」のコーナーでは、ベクトルと相関係数の関係や、曲線の回転を複素数平面上の点の回転を利用して求める話題を取り上げ、さらに視野を広げることができるように工夫しました。

| 2. 対照表 | | | |
|----------------------|-------------------------|------------------------|------|
| 図書の構成・内容 | 学習指導要領の内容 | 該当箇所 | 配当時数 |
| 第1章 ベクトル | (1) | p. 5～68 | 30 |
| 第1節 平面上のベクトルとその演算 | (1)ア(ア)(イ), イ(ア)(イ) | p. 6～27 | 11 |
| 第2節 ベクトルと平面図形 | (1)ア(ア), イ(イ)(ウ) | p. 28～43 | 8.5 |
| 第3節 空間のベクトル | (1)ア(ウ), イ(イ) | p. 44～59, 61～63, 65 | 8.5 |
| 第2章 複素数平面 | (2) | p. 69～100 | 16 |
| 第1節 複素数平面 | (2)ア(エ)(オ), イ(イ) | p. 70～86 | 8.5 |
| 第2節 平面図形と複素数 | (2)イ(イ)(ウ) | p. 87～97 | 5.5 |
| 第3章 平面上の曲線 | (2) | p. 101～142 | 20 |
| 第1節 2次曲線 | (2)ア(ア), イ(ア) | p. 102～123 | 11 |
| 第2節 媒介変数表示と極座標 | (2)ア(イ)(ウ), イ(ウ) | p. 124～139 | 7 |
| 第4章 数学的な表現の工夫 | (3), 内容の取扱い(2) | p. 143～162 | 10 |
| 第1節 統計グラフの活用 | (3)ア(ア), イ(ア)／内容の取扱い(2) | p. 144～153 | 5 |
| 第2節 行列の活用 | (3)ア(イ), イ(ア)／内容の取扱い(2) | p. 154～162 | 5 |
| | | 計 | 76 |

上記の配当時数について、標準単位数に対応する単位時間より少なく設定しております。

それにより、上記時間以外に、調べ学習や話し合い学習など、学校の創意工夫による幅を持たせた授業を展開できるようにしています。

① 編 修 趣 意 書

(発展的な学習内容の記述)

| 受理番号 | 学 校 | 教 科 | 種 目 | 学 年 |
|-----------|-----------|---------|-----|-----|
| 103-162 | 高等学校 | 数学 | 数学C | |
| 発行者の番号・略称 | 教科書の記号・番号 | 教 科 書 名 | | |
| 61 啓林館 | 数C705 | 数学C | | |

| ページ | 記 述 | 類型 | 関連する学習指導要領の内容や 内容の取扱いに示す事項 | ページ数 |
|----------------|-----------------|----|---|-------|
| p. 60 | 3点を通る平面上の点 | 2 | (1)ア(ウ), イ(イ) 空間のある平面上の点を, その平面上の平行でない2つのベクトルを用いて表すことに関連して, その平面上の一直線上にない3点の位置ベクトルを用いて表すことを扱います。 | 1 |
| p. 63 | 平面の方程式 | 2 | (1)ア(ウ), イ(イ) 平面上の零ベクトルでないベクトルに垂直な直線の法線ベクトルに関連して, 空間における平面の方程式を扱います。 | 1 |
| p. 64 | 直線の方程式 | 2 | (1)ア(ウ), イ(イ) 平面上の直線のベクトル方程式に関連して, 空間の直線の方程式を扱います。 | 1 |
| p. 166 ～167 | 曲線の回転と 複素数平面 | 2 | (2)ア(ア)(エ), イ(イ)(ウ) 複素数平面上の点の移動を利用して, 直線や2次曲線を回転させた図形の方程式を扱います。 | 2 |
| p. 184 | 同じ平面上にある4点 | 2 | (1)ア(ウ), イ(イ) 空間のある平面上の点を, その平面上の平行でない2つのベクトルを用いて表すことに関連して, その平面上の一直線上にない3点の位置ベクトルを用いて表すことをまとめています。 | 0. 25 |
| 合 計 | | | | 5. 25 |

(「類型」欄の分類について)

- 1…学習指導要領上, 隣接した後の学年等の学習内容(隣接した学年等以外の学習内容であっても, 当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む)とされている内容
- 2…学習指導要領上, どの学年等でも扱うこととされていない内容